

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

秋田大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

《概要》	5
------	---

《本文》	6
------	---

《判定結果一覧表》	17
-----------	----

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

秋田大学は、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げ、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、その使命である教育と研究を推進する。

この見地から本学は、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、優れた人材を育成するため、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進する。

全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人を育成するためには、充実した教養と専門、さらには分野融合的な教育が不可欠である。そこで、本学の国際資源、教育文化、医、理工の四学部は、固有のミッションに基づく専門領域と諸学諸組織との融合を通じて、地域社会の持続的な発展を担う専門的職業人と国際社会で活躍する高度専門職業人及び学術研究者を育成する。

こうした基本認識に立って、本学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学修者中心の大学たることを目指す。

以上のような理念に基づき、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。
2. 研究においては、地域の特性を活かした研究とグローバルな課題に対応する研究に取り組むことにより、イノベーションの創出を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取組を推進するとともに、地域医療の中核的役割を担う。
4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。
5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指す。

本学は昭和24年に、地域の教育と産業を担ってきた秋田師範学校と秋田鉱山専門学校を、学芸学部及び鉱山学部の2つの学部で融合し、新制国立秋田大学として創立された。その後、学芸学部は教育学部と改称し、昭和45年には地域の医療を担う医学部が加わることで、秋田大学は3学部体制として充実した。

平成元年には、地域高齢者の介護要請に応じて医療技術短期大学部を併設して、3学部1短期大学部となった。平成10年には、教育学部は教育文化学部へ、鉱山学部は工学資源学部へと改組・再編し、平成14年には医療技術短期大学部は医学部保健学科として発展的に改組し地域の医療と介護を担っている。平成26年には大幅な組織改革を行い、国際資源学部、教育文化学部、医学部、理工学部の4学部体制とした。さらに平成28年から大学院を国際資源学研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科の4研究科体制とし、総合的な教育研究体制を整えた。

本学は、平成31年度（令和元年度）末時点で4学部4研究科体制から構成されており、資源、教育、医療、理工学で活躍する人材を育成している。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- 本学では、大学の基本的な目標として学修者中心の大学たることを目指しており、その下で「学生第一」をスローガンとして掲げ、教育・研究活動を展開し、次代を担う学生たちを大事に育てていくことを通じて地域に貢献し、世界に通じる大学となることを目指している。主な取組は以下のとおり。

①イングリッシュマラソンによる全学を挙げた英語教育

平成 29 年度から学生の英語力向上のための特別プログラムとして、「イングリッシュマラソン」を実施している。参加学生には、TOEIC 対策講座受講や TOEIC 用語彙修得のための学習、THE ALL ROOMS（教員がトレーニングした学生スタッフが利用者に英語を教える語学自習室）での週 3 回以上のトレーニング等を課し、夏季休業期間中に海外語学研修機関へ 2 週間の短期留学を行っており、毎年度 30～40 人程度が参加している。参加学生の TOEIC の平均点はイングリッシュマラソン開始前後で比較すると過去 3 年間、650 点前後まで、約 100 点近くスコアアップしており、英語力の向上に大きな効果を上げている。（関連する中期計画 1－3－1－1）

②学力向上に向けた取組

全学的な学習支援の主な取組として、「学習ピアサポート・システム」による学生の学習・相談体制を構築しており、先輩学生が 1 年次の学習上のサポートを行い、学生同士で学習上の相互支援を行っている。

また、授業内容についての質問や、高校までの学習で不十分な箇所の復習など、各教員や先輩が直接対応する「質問教室」を開設し、数学、化学について週 1、2 回実施している。

このほか、THE ALL Rooms では、「学生による学生のための自律学習」をテーマに、英語が堪能な大学院生、学部生、留学生が常駐し、英語に関わる様々な活動を支援している。

高校までの学習内容が大学の授業ではどのように展開されるのか触れることができる「高大接続テキスト」を、秋田県内の高校教員と本学教員が協働して作成しており、これまでに「物理」、「化学」、「生物」、「数学」、「情報」、「英語」科目分を作成している。第 3 期中期目標期間中においては、高校教員や、学生からの意見を踏まえ、改訂作業を行った。本テキストは、授業の中で副教材や自習教材として活用したほか、授業時間以外でも、授業内容の予習・復習や試験対策等に活用している。また、学習支援企画として 1 年次の学生を対象とした物理の高大接続授業を開催し、実験を行うときのポイントや考察する際の重要事項等、本テキストの内容に基づいた講義・実験を行った。（関連する中期計画 1－1－1－3、1－3－1－1）

③キャリア教育の推進

平成 27 年度から教養基礎教育科目において『起業力』養成ゼミナールを開講しており、起業家をゲストに招いての講演会や討議を行ったほか、ビジネスプランの作成を行い、起業や経営の基礎を学ぶ機会を提供した。平成 30 年度においては、授業で作成した起業プランを、「あきたビジネスプランコンテスト 2018」（あきた起業家交流フェスタ 2018 実行委員会主催）へ応募したところ、5 人が最終審査会（プレゼンテーション審査）にファイナリストとして出場し、グランプリ、準グランプリ、グッドプラン賞、審査員特別賞を受賞した。（関連する中期計画 1－3－1－2）

④学生相談体制の充実

学生特別支援室（学生サポートルーム）において、障害のある学生や、学生生活に困難を感じる学生のサポートを行っており、学生面談（保護者を含む）の実施件数は、平成 27 年度の延べ約 600 件から平成 31 年度（令和元年度）は延べ約 1,300 件まで毎年増加している。また同室は、手形キャンパスに設置していたが、医学部学生等から、医学部がある本道キャンパスにおいても同様のサポートが利用できるよう改善の要望があったことを受け、平成 31 年 1 月に「学生サポートルーム本道キャンパス」を設置し、学生等からの相談に応じている。（関連する中期計画 1－3－2－1）

従来は学生相談に対応できる時間帯が限られており、時間や内容を問わず相談できる窓口を設置することが急務となっていたことから、平成 28 年 7 月に「秋田大学学生相談ダイヤル（24 時間対応）」を開設し、夜間、休日等でも気兼ねなく様々な相談ができる環境を整えており、毎年度約 50～100 件の相談が寄せられている。（関連する中期計画 1－3－2－1）

- 本学では、平成 26 年度に資源を網羅的に学ぶことができる、我が国唯一の「資源学」を対象とした国際資源学部を設置した。本学部において、資源形成メカニズムの解明から資源探査、開発・生産を対象とした理工系分野と、資源国との関係や政策・文化や資源経済などを対象とした人文・社会科学系分野の文理融合により、世界をフィールドに、資源の最先端の教育を実施していることは本学の大きな個性である。

学部設置以来、国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制の下、国際舞台で活躍できる資源人材を養成している。主な取組は以下のとおり。

① 海外資源フィールドワーク

海外資源フィールドワークは、資源に関連する最新の実情について、海外で調査し、学ぶことを目的とした 3 年次必修科目の実習であり、学生は数人ごとのグループに分かれて海外の実習先に約 3～4 週間滞在し、鉱山実習や地質実習、資源関係企業でのインターンシップ、関連大学での演習、フィールドスタディなどを行っている。

本実習では、安全かつ円滑な実施に向け、民間危機管理会社が提供する総合危機管理サービスの導入、事前の安否確認練習及び参加期間中の担当教員への毎日の報告の義務付け、総合危機管理サービスを通じた安否確認の実施等、危機管理体制を整備した。また、派遣先の決定にあたっては、海外資源フィールドワーク委員会において、外務省が公表する危険情報 1 以上の国でプログラムを実施することを計画している場合、プログラム責任者へのヒアリングを実施し、実施の可否を審議のうえ、その結果を学部の執行部会議にて審議する体制を構築した。これらの取組の効果等により、これまでに大きな事件・事故は発生しておらず、学生の参加率も 100%を維持している。（関連する中期計画 1－1－1－2，1－1－1－6，4－1－1－1，4－1－1－2）

② 国際資源学部における英語による授業の実施

平成 26 年度の学部設置以来、国際資源学部 2 年次以上の全専門科目を英語で実施するとともに、I－E A P（Intensive-English for Academic Purpose：大学集中英語）、English Camp、ディスカッション演習、ディベート演習等英語力養成科目にも注力し、学生の英語力向上を図った。

英語力向上の教育効果検証のため、1～3 年次の学生を対象に TOE I C を毎年度受験させ、試験結果の分析を行った。分析の結果、1～3 年次全学年において英語力向上を確認し、4 年間の学士課程教育を通じて、国際性・専門性を身に付けられる教育プログラム体系となっていることを確認した。（関連する中期計画 4－1－1－1）

③資源学分野における海外大学との連携強化

海外共同研究拠点として従来の4箇所（モンゴル、タイ（2箇所）、インドネシア）に加え、平成29年度に秋田大学ボツワナ事務所、平成31年度（令和元年度）に秋田大学・パジャジャラン大学共同研究室（インドネシア）、秋田大学・UAE大学共同研究室（アラブ首長国連邦）を開設し、資源分野における世界のハブ大学を目指した海外大学との連携を強化した。UAE大学内に設置した共同研究室では、油田からの排水等を浄化する水処理における共同研究を本学、UAE大学、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、国際石油開発帝石株式会社、株式会社メタウォーターと共同で令和元年11月から実施中である。

また、インドネシアにおいて、共同研究室があるトリサクティ大学、パジャジャラン大学、ハサヌディン大学にガジャマダ大学、プルタミナ大学を加え、本学が中心となり、Japan - Indonesia Nannofossil Consortium（JINC）を設立した。理事長に国際資源学研究科特別教授が就任し、インドネシアの石灰質ナノ化石研究を共同で進め、会議やワークショップで発表し共有した。その成果はインドネシア石油業界に提供し、資源業界の発展に寄与するものである。

さらに、国際資源学研究科とパジャジャラン大学地質工学部との間で、本学初となるダブルディグリープログラム協定を平成30年度に締結し、令和2年度以降に学生の相互派遣を実施する予定である。（関連する中期計画4-1-1-2）

[戦略性が高く意欲的な目標・計画（◆）]

- 秋田鉱山専門学校・秋田大学鉱山学部及び工学資源学部の資源学分野における教育研究成果の蓄積を活かした国際資源学部を中心に、国内外の資源に関わる企業・政府機関等の多様な分野で活躍できる人材の養成を行い、我が国の資源・エネルギー戦略に寄与することを目指し、世界的な資源学教育研究拠点としての充実と、世界水準の教育基盤を確立させる。（関連する中期計画1-1-2-1、4-1-1-1、4-1-1-2）

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、秋田大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）		判定	中期目標（小項目）判定の分布				
	中期目標（中項目）		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を 上げている	【3】 進捗している	【2】 十分に進捗している とはいえない	【1】 進捗していない
I 教育に関する目標		【3】 順調に進んでいる					
	1 教育の内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 順調に進んでいる			2		
	2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 順調に進んでいる			2		
	3 学生への支援に関する目標	【3】 順調に進んでいる			2		
	4 入学者選抜に関する目標	【3】 順調に進んでいる			1		
II 研究に関する目標		【2】 おおむね順調に進んでいる					
	1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある		1	1		
	2 研究実施体制等に関する目標	【2】 おおむね順調に進んでいる				1	
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標		【2】 おおむね順調に進んでいる					
		なし			1	1	
IV その他の目標		【3】 順調に進んでいる					
	1 グローバル化に関する目標	【3】 順調に進んでいる			2		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目 1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4 項目のうち、4 項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） 教育の内容及び教育の成果等に関する目標（中項目 1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「教育の内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2 項目のうち、2 項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
学士課程の教育カリキュラムの充実を推進し、豊かな教養と高い人間性を備えるため、多様で調和のとれた教養基礎教育と各分野のミッションに沿った専門教育を通じ、世界や地域の現実に課題意識を持った学修者を育成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

小項目 1-1-2	判定		判断理由
大学院の教育課程を充実させ、専門的知識と実践的能力を備え、かつ専門分野を俯瞰的に捉えることができる高度専門職業人及び国際的水準の研究を担う研究者を養成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 博士課程教育リーディングプログラムの実施 レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラムでは、資源学分野におけるグローバルリーダー養成のための体系的なカリキュラムを構築している。文部科学省博士課程教育リーディングプログラムとしての支援が終了した令和元年度以降も、国際資源学研究科において資源ニューフロンティア特別教育コースとして継続している。この特別コースでは、支援期間と同様の教育研究環境をプログラム学生に提供しているほか、従来、奨励金を受給していた学生についても、大学からの支援を受け、学業奨学資金（学生支援費）や授業料免除措置によって支援を継続している。（中期計画1-1-2-1）		

(2) 教育の実施体制等に関する目標（中項目 1-2）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる (判断理由)「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
全学の教職員が連携し、FD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）活動を強化して教育の質を向上させる体制や取組を構築する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症に係る対応について、前期の授		

	業は原則全面的にオンラインで行い、後期は対面と遠隔の授業を併用している。対面授業について、後期開始後2週間は座席間隔2メートルの間隔とし、その後1メートルとしている。また、学生への支援金として30万円の貸与を行っている。		
小項目 1-2-2	判定		判断理由
教育・研究活動に対する社会の要請等に対応して、教育実施体制を不断に検証・検討することのできる体制を確立させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
			《特記事項》
			該当なし

(3) 学生への支援に関する目標（中項目 1-3）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる (判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。
--

小項目 1-3-1	判定		判断理由
修学支援、キャリア形成支援及び就職支援活動を通じて、学生が自らの将来を展望し、意欲的に学べる環境を充実させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
			《特記事項》
			(特色ある点) ○ 学内インターンシップの実施 学生の職業観及び人間力を醸成するため、AUSS (Akita University Student Staff インターンシップ型学内業務雇用) を毎年度実施し、社会で働く経験を疑似体験させており、例年80名から150名程度の学生が学内業務へ参加している。(中期計画 1-3-1-2)

小項目 1-3-2	判定		判断理由
生活支援や経済的支援活動を通じて、学生が心身ともに健康で安心して学べる環境を充実させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 学生相談体制の充実 学生が時間や内容を問わずいつでも相談できる窓口を設置するべく、平成 28 年度に秋田大学学生相談ダイヤル（24 時間対応）を開設している。フリーダイヤルで 24 時間いつでも相談できる場を用意することにより、学生には安心感を与え、様々な相談ができる環境を整えている。（中期計画 1-3-2-1）		

（４） 入学者選抜に関する目標（中項目 1-4）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる (判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が 1 項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。
--

小項目 1-4-1	判定		判断理由
本学の理念・目標や各学部・研究科のアドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）に沿った優れた人材が国内外から多く集まるように、入学者選抜方法を改善・充実させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目 2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2 項目のうち、1 項目が「計画以上の進捗状況にある」、1 項目が「おおむね順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目 2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2 項目のうち、1 項目が「優れた実績を上げている」、1 項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
地域に根ざす大学としての個性を発揮し、地域の特性を活かした研究の推進とイノベーションの創出により、地域の活性化や発展に寄与する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「医理工連携の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	（優れた点） ○ 医理工連携の推進 医理工連携を推進することで、令和2年7月までに、歩行用リハビリテーションロボット、小型リハビリテーションロボット、座位バランス装置等の「医理工連携ブランドロゴマーク」添付商品の商品化が中期計画に掲げる10品に達して		

	いる。（中期計画 2-1-1-1） （特色ある点） ○ 航空宇宙分野における共同研究の推進 秋田県が成長・重点産業として位置付ける航空機産業において、軽量で丈夫な炭素繊維強化プラスチック素材の製造コストの低減等を目的として、平成 29 年度に秋田大学を含む県内 2 大学と 2 企業により「秋田複合材新成形法技術研究組合」を設立し、研究開発拠点を整備している。さらに、平成 30 年度には、航空機システム電動化のための秋田県・民間企業との共同研究実施体制として「秋田リサーチイニシアティブ」を設立している。（中期計画 2-1-1-1）		
小項目 2-1-2	判定		判断理由
国際的な研究水準の向上と本学の強みや特色を活かした研究の推進により、新たな価値の創造と新たな連携へと発展させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「十分に進捗しているとはいえない」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
研究を推進する研究組織の弾力化を促進し、研究環境の国際化を推進するとともに、研究成果や知的財産を地域や社会に発信・還元できる人材を育成する。	【2】	中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない	○ 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。 ○ また、「大学発ベンチャー企業支援の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が十分に見込まれない。
	《特記事項》		
	(改善を要する点) ○ 大学発ベンチャー企業支援の状況 「大学発ベンチャー企業支援について、ベンチャー起業に繋がる見込みのあるシーズを持つ研究者へヒアリングを行うなどの取組を実施しているものの、令和2年度時点での大学発ベンチャー企業数は5件であり、累計10社以上認定するという目標の達成は難しい状況である。(中期計画2-2-1-3)		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、1項目が「進捗している」、1項目が「十分に進捗しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
地(知)の拠点大学として、学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題解決を目指して、地域との協働による地域振興策の取組や地域を担う人材養成を推進する。	【2】	中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない	○ 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。 ○ また、「県内就職率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が十分に見込まれない。
	《特記事項》		
	(改善を要する点) ○ 県内就職率の状況 秋田大学学生の県内就職率について、「インターンシップセミナー」や「ジョブシャドウイング」等の県内就職促進の支援事業や、全学生に県内就職のメリットを示すパンフレットの配布と同メリットに関する学生向けセミナーを開催し、県内就職を喚起するなど、地元定着率の向上の取組を行っているものの、県内就職率は平成28年度から令和元年度にかけて33.3%から37.4%となっており、目標値48.0%を達成することは困難と判断されるため、県内就職率の向上策についてさらに工夫する必要がある。(中期計画3-1-1-3)		

小項目 3-1-2	判定		判断理由
秋田県唯一の国立大学法人として、県内自治体や企業等と連携し、本学の有する教育研究資源を広く地域社会に提供し、地域活性化に貢献する。特に、県内に設置された各分校を通じた地域連携活動を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 理工学部 of 社会通信講座 理工学部においては、国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育である秋田大学理工学部通信教育講座を開講しており、秋田県のみならず、全国から入学者を受け入れ、社会人の職業上必要な知識や技術の習得及び教養のレベルアップに貢献している。(中期計画 3-1-2-2)		

Ⅳ その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
秋田鉱山専門学校・秋田大学鉱山学部及び工学資源学部の資源学分野の蓄積を活かした国際資源学部を中心に、国内外の資源に関わる企業・政府機関等の多様な分野で活躍できる人材の養成を行い、我が国の資源・エネルギー戦略に寄与することを目指し、世界的な資源学教育研究拠点としての充実と、世界水準の教育基盤を確立させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
		《特記事項》	
		（特色ある点） ○ 国際資源学部の英語教育 国際資源学部においては、平成26年度の学部設置以降、2年次以上の専門科目は全て英語で実施しているほか、大学集中英語（I-EAP）、English Camp、ディスカッション演習、ディベート演習等を通して英語力を養成している。教育効果については、1年次生から3年次生を対象としたTOEIC-IP試験の結果により検証しており、特に、3年次においては2年次時点の結果と比較すると、1年間で平均点が約40点上昇している。（中期計画4-1-1-1）	

小項目 4-1-2	判定		判断理由
国際理解力や異文化コミュニケーション能力を持ったグローバルに活躍する人材を育成するため、教育プログラム・カリキュラム等を整備し、学生や教職員の派遣・受け入れを推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
大項目1 教育に関する目標		【3】	順調に進んでいる	3.11 うち現況分析結果加算点 0.11
中項目1-1 教育の内容及び教育の成果等に関する目標		【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-1-1 学士課程の教育カリキュラムの充実を推進し、豊かな教養と高い人間性を備えるため、多様で調和のとれた教養基礎教育と各分野のミッションに沿った専門教育を通じ、世界や地域の現実に課題意識を持った学修者を育成する。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-1-1-1 【1】学士課程においては、判断力・コミュニケーション力、探究心、倫理性などを涵養するため、知識・技能・態度を育成するカリキュラムマップ(履修系統図)に基づく教養基礎教育を継続的に実施する。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-1-2(★) 【2】専門分野においては、各学部のミッションの再定義等で明らかにした文理融合カリキュラムに基づく自然科学と人文科学両面から資源問題を捉える能力を有し国際的に活躍できる人材の育成や、超高齢化社会を迎えた地域の活性化に資するため、小学校での実習経験を増やして実践力を高めることなどにより全国トップクラスの学力を支える教員(秋田県における小学校教員養成占有率の60%以上確保)、秋田県や地域の医療機関等と連携することなどによる地域医療を支える医療人、学生自主プロジェクト等の実践教育などによる新しいものづくり・ことづくりを担える人材を育成する。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-1-3(★) 【3】高校から大学への接続を円滑に行うため、平成22年度「大学教育推進プログラム」として採択された「高大接続の実践的プロジェクト」の成果を継承し、秋田県の高等学校教諭と本学教員が合同で編集し平成26年3月に発刊した「秋田大学高大接続テキスト」を自学自習用として活用し、その成果を高大接続センターにおいて検証のうえ、改善につなげる。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-1-4 【4】アクティブ・ラーニング(能動的学修)や双方向型授業への転換を進め、学生の授業時間外での主体的な学習時間を第2期中期目標期間の平均値に比較し、25%以上増加させる。また、学習成果の達成度をGPA(グレード・ポイント・アベレージ)等を用いて引き続き計測し、一定の基準を超えた学生については、半期で受講できる上限単位数を超える履修を認めるなどの修学指導に活用する。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-1-5 【5】授業科目へのナンバリング(授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組み)の100%導入、全学的なシラバス(授業計画)の書式の整備などにより、各分野のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)並びにディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)に基づいた体系的な教育課程を維持向上させ、その成果を教育研究カウンスルにおいて検証し、改善につなげるなど、全学的な教学マネジメントを確立させる。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-1-6(★) 【6】国境を越えた多様な学生との交流や学生の国際理解力及び異文化コミュニケーションの向上を図るため、専門教育科目の英語による授業科目数を増加させる。		【2】	中期計画を実施している	
小項目1-1-2 大学院の教育課程を充実させ、専門的知識と実践的能力を備え、かつ専門分野を俯瞰的に捉えることができる高度専門職業人及び国際的水準の研究を担う研究者を養成する。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-1-2-1(◆) 【7】平成24年度「博士課程教育リーディングプログラム(オンリーワン型)」に採択された「レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム」を国際資源学研究科において継承し、優秀な資源人材の育成を推進する。専門科目を100%英語で教授するほか、海外鉱山等を活用した海外インターンシップ/フィールドワークなど実学教育(On-the-Job-Education)を積極的に取り入れ、実践力・俯瞰力の修得を重視した教育研究活動を推進する。また、産学官の専門家を巻き込んだキャリアパスの支援教育や、国内外の優秀な学生の獲得から学位取得までの質保証審査を確実にし、外部評価などによるプログラムの質保証を進める。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-1-2-2 【8】平成28年4月に設置された国際資源学研究科、理工学研究科、改組再編した教育学研究科、及び医学系研究科において、各分野のカリキュラム・ポリシー並びにディプロマ・ポリシーに基づいた一貫した学位プログラムを組織的に実践するとともに、引き続き専門分野の枠を超えた統合的かつ体系的な教育課程(医理工連携コース等)及び秋田県立大学との大学院共同教育課程「共同ライフサイクルデザイン工学専攻」を推進し、各研究科が目指すべき目標を達成しているかについて、外部委員を構成員に含む連携運営パネル(教育研究カウンスル・運営カウンスル)において検証し、改善につなげる。		【2】	中期計画を実施している	

秋田大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・ 中期計画における 各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標		【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-2-1 全学の教職員が連携し、FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)活動を強化して教育の質を向上させる体制や取組を構築する。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-1-1 【9】アクティブ・ラーニングや双方向型授業への転換を進めるため、第3期中期目標期間を通じて在職している教員のFDへの参加率を平成33年度末までに90%以上とする。また、アクティブ・ラーニングや双方向型授業の実施状況について、学生による授業評価または同僚評価等により、高等教育グローバルセンター及び各学部の学務系委員会等が検証し、改善につなげる。		【2】	中期計画を実施している	
小項目1-2-2 教育・研究活動に対する社会の要請等に対応して、教育実施体制を不断に検証・検討することのできる体制を確立させる。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-2-1 【10】平成26年度に開設した国際資源学部、理工学部、改組再編した教育文化学部、及び医学部それぞれのミッションを実現するため、高等教育グローバルセンター及び各学部学務系委員会等において、達成度調査・学習行動調査等により学生の学修成果を把握するとともに、各学部を設置された外部委員を構成員に含む教育研究カウンスルにおいて検証し、改善につなげる。特に、教育文化学部においては、教員養成課程の教職経験のある大学教員の割合を、教職経験者の積極的な採用などにより平成33年度末までに60%以上を確保する体制を構築する。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-2-2 【11】大学院課程においては、平成28年4月に設置された国際資源学研究科、理工学研究科、改組再編した教育学研究科、及び医学系研究科の運営体制、教育課程及び教育成果について、外部委員を構成員に含む連携運営パネル(教育研究カウンスル・運営カウンスル)において検証し、改善につなげる。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-2-3 【12】授業力に加え、校内研究や教育課題に取り組む力を育成することにより、教職大学院修了者の教員就職率を90%以上確保し、小中学校の学力向上に貢献するとともに、秋田県立大学との大学院共同教育課程「共同ライフサイクルデザイン工学専攻」や平成32年度までに設置予定の大学院医理工連携専攻(仮称)を通じて、地域のリサイクル産業や医療関連産業の発展に寄与し、その成果について、外部委員を構成員に含む連携運営パネル(教育研究カウンスル・運営カウンスル)において検証し、改善につなげる。		【2】	中期計画を実施している	
中項目1-3 学生への支援に関する目標		【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-3-1 修学支援、キャリア形成支援及び就職支援活動を通じて、学生が自らの将来を展望し、意欲的に学べる環境を充実させる。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-1-1(★) 【13】学生の学修・進級・進学に関する各部局の相談部署相互の連携を密にし、修学支援機能を一層強化するため、全学学務系委員長会議を設置するとともに、世界・地域を見据えたリーダーを育むため、引き続き新入生の課題克服に向けたサポートを行う「学習ピアサポート・システム」、レポート作成などの相談に乗る「学習サポートデスク」、グループで討論しながら学修できる「コモンズ」の提供、英語力向上のための「The ALL Rooms」、基礎学力養成のための「質問教室」等の運用を推進し、その成果を高等教育グローバルセンターにて検証のうえ、改善につなげる。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-2(★) 【14】従来から実施している初年次から学生の職業観を育成するキャリア教育や学内インターンシップの推進、学生一人ひとりに対する就職支援サポート体制の充実、「起業力養成講座」等開設による学生のベンチャーマインド養成を推進し、その成果を高等教育グローバルセンター及び学生支援総合センターにて検証のうえ、改善につなげる。		【2】	中期計画を実施している	
小項目1-3-2 生活支援や経済的支援活動を通じて、学生が心身ともに健康で安心して学べる環境を充実させる。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-2-1(★) 【15】全ての学生にとって学びやすい環境を充実させるため、学生支援総合センターに設置した「学生特別支援室(学生サポートルーム)」や「よろず相談室(おざってたんせ)」,メンタル面の相談・健康相談に対応するために保健管理センター内に設置した「学生相談所」がそれぞれ連携し、引き続き学生の修学支援に取り組む。また、それらの成果を学生支援総合センターにて検証のうえ、改善につなげる。		【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	中期計画1-3-2-2 【16】意欲と能力ある学生が経済的な理由により学業を断念することがないよう、引き続き入学科・授業料免除を全学的に実施するとともに、特に成績優秀な学生に対しては、学長より学業奨励金を給付するなどの顕彰を行う。また、大学院進学予定の学生の中で成績優秀または経済的支援を必要とする学生に対して、奨学金を給付するなどの経済支援策を実施する。これら各種経済的支援の効果を把握するため、成績・学習時間などに関するアンケート調査等を実施し、その成果について外部委員を構成員に含む教育研究カウンスルにおいて検証のうえ、改善につなげる。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-4 入学者選抜に関する目標		【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1 本学の理念・目標と各学部・研究科のアドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）に沿った優れた人材が国内外から多く集まるように、入学者選抜方法を改善・充実させる。		【3】	進捗している	2.00
中期計画1-4-1-1 【17】平成32年度の入試改革に向けた体制整備として、高大接続教育部門、アドミッション部門及び広報推進部門からなる秋田大学高大接続センターの平成29年度中の設置に向けた準備を開始し、アドミッション部門の下でAO（アドミッション・オフィス）入試や推薦入試の実施状況・実施結果の検証を行うとともに、アドミッション・ポリシーに基づいた能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜システムを開発し、平成30年度にはその概要を公表し、平成32年度入試から導入する。		【2】	中期計画を実施している	
大項目2 研究に関する目標		【2】	おおむね順調に進んでいる	2.75 うち現況分析結果加算点 0.00
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標		【4】	計画以上の進捗状況にある	3.50
小項目2-1-1 地域に根ざす大学としての個性を発揮し、地域の特性を活かした研究の推進とイノベーションの創出により、地域の活性化や発展に寄与する。		【4】	優れた実績を上げている	3.00
中期計画2-1-1-1 【18】地域の問題解決に向け、引き続き企業等と協同のうえ、高齢化対応のシステムや福祉医療機器の開発を推進し、医理工連携による大学院教育を行うほか、平成33年度末までに秋田大学医工連携ブランドロゴマーク添付商品を累計10品以上商品化するなど秋田県版医療のシリコンバレーの形成を目指す。また、地域企業等と連携して、航空宇宙分野の共同研究活動を行う。		【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
小項目2-1-2 国際的な研究水準の向上と本学の強みや特色を活かした研究の推進により、新たな価値の創造と新たな連携へと発展させる。		【3】	進捗している	2.00
中期計画2-1-2-1 【19】基礎的基盤的研究を重視するとともに、研究の多様性・活性化を図るため、若手研究者・女性研究者に対し、研究スタートアップのための経費支援等を行う。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-2-2 【20】資源学・資源リサイクル分野及び生体情報学・移植医療分野を中心に、研究設備やスペース利用などの充実・研究機能強化を進めるとともに、国際的な先端研究の展開並びに産業化にもつながる研究を推進する。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-2-3 【21】科研費及びその他競争的資金の獲得を拡大するための情報収集を行い、リサーチ・アドミニストレーターの配置等により効果的な研究費の獲得を支援する。特に科研費については、応募資格者数に対する申請件数の比率を100%以上とするとともに、採択率向上のため、研究者間のピアレビュー等の取組を推進する。また、外部研究資金獲得のため、産業界や他の教育研究機関と連携した研究や金融機関等との連携などの取組を推進する。		【2】	中期計画を実施している	

秋田大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標		【2】	おおむね順調に進んでいる	2.00
小項目2-2-1 研究を推進する研究組織の弾力化を促進し、研究環境の国際化を推進するとともに、研究成果や知的財産を地域や社会に発信・還元できる人材を育成する。		【2】	十分に進捗しているとはいえない	1.75
中期計画2-2-1-1 【22】学内共同教育研究施設等各組織の役割を明確化させ、その機能を最大限発揮するため、平成28年度中に、人員配置、施設設備、予算等について検証のうえ、改組・再編を行い、研究推進及び研究支援の体制・機能を強化する。平成29年度以降は、毎年度各組織において活動状況の自己点検評価を行い、学内共同教育研究施設評価改善検討会議で検証のうえ、改善につなげる。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-2 【23】本学教員と地域企業等との連携を促進し、地域企業の研究・開発力向上に寄与するため、学生も参加する産学連携推進による人材育成を行うとともに、引き続き社会人のキャリアアップやキャリアチェンジを支援する社会人学び直しプログラムである「秋田大学アドバンスト・リエデュケーション・カリキュラム(AAReC)」を実施する。また、引き続き秋田大学履修証明プログラム「あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース」を秋田県と協力して開講し、環境・リサイクル産業の振興・拡大及び環境教育等に貢献できる人材を養成する。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-3 【24】「起業力養成講座」等による教員や学生のベンチャーマインドの醸成や起業支援を行うなど地域産業の発展に貢献する人材を育成し、平成33年度末までに秋田大学発ベンチャー企業を累計10社以上認定する。		【1】	中期計画を十分に実施しているとは言えない	
中期計画2-2-1-4 【25】教員の外部資金の獲得状況や論文等の研究活動をデータベース化し、企業や国内外の大学、研究機関等との研究協力・連携を推進することにより、受託研究及び共同研究を実施する教員の割合を、第3期中期目標期間を通じて25%以上を維持するほか、地域や社会に貢献するような分野横断型または学際的なプロジェクトを推進する。		【2】	中期計画を実施している	
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標		【2】	おおむね順調に進んでいる	2.50
		なし	—	—
小項目3-1-1 地(知)の拠点大学として、学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題解決を目指して、地域との協働による地域振興策の取組や地域を担う人材養成を推進する。		【2】	十分に進捗しているとはいえない	1.67
中期計画3-1-1-1 【26】学生の地域に関する知識・理解を深めるため、地域志向に関する教育を教育内容の充実等により実施する。また、第3期中期目標期間中に本学特有のCOCキャリア認証の仕組みを地(知)の拠点推進本部で構築し、フィールドワークや地域活動への参加を奨励して、地域に関わる学生を平成27年度末と平成33年度末を比較して10%以上増加させる。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-2 【27】「地(知)の拠点整備事業」(大学COC(Center of Community)事業)最終年度の平成29年度までに、大学COC事業に掲げている5つの課題(豪雪地帯の積雪寒冷期における地震防災、在宅看護・医療を考える地域ネットワークの形成、鉱山の隆盛がもたらした阿仁文化の現代への活用、広い低平地における津波対策、豊川小学校跡地を活用した地域住民の心のよりどころとなる多目的交流施設等による地域活動の活性化)について、秋田県や事業参画自治体及び地域住民との協働作業を進め、課題解決に向けた取組を行い、県内自治体と住民が超高齢社会においても希望を持てる「秋田発の地域生活モデル」を構築する。また、平成30年度以降は「秋田発の地域生活モデル」を広く普及させる事業展開を行う。		【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-3 【28】超高齢化及び人口減少が進む秋田県において、県内の大学が連携して県や産業界・企業等と協働し、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC＋事業)に掲げている若者の地元定着の促進と地元へ貢献する若者の育成を推進する。具体的には、事業の3本の柱(6大学連携による「秋田おらほ学」の展開、3大学と地元企業群による就職支援・若者定着の促進、ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり)を推進することにより、本学学生の県内就職率を平成26年度(37.9%)と比較して、COC＋事業最終年度の平成31年度までに、10%アップ(48.0%)させる。また、事業責任大学として3大学の学長・校長の緊密な連携の下、秋田県知事、秋田商工会議所会頭等で構成する秋田創生COC＋協議会を設置し、事業の進捗管理や検証を行う。さらに、COC＋推進コーディネーターを中心に、事業協働地域の就職率10%アップを目指してCOC＋事業を着実に実施するものとし、平成32年度以降も事業を継承した取組を行う。		【1】	中期計画を十分に実施しているとは言えない	

中期目標(大項目)		判定		下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	小項目3-1-2 秋田県唯一の国立大学法人として、県内自治体や企業等と連携し、本学の有する教育研究資源を広く地域社会に提供し、地域活性化に貢献する。特に、県内に設置された各分校を通じた地域連携活動を推進する。	【3】	進捗している	2.25
	中期計画3-1-2-1 【73】本学、秋田県及び秋田県医師会が三位一体となり高齢者医療に特化した研究拠点として「高齢者医療先端研究センター」を設置し、戦略的な教員配置や外部資金の活用等により、第3期中期目標期間中に高齢者の医療環境改善への貢献など社会的要請に応えるための体制を整備する。「高齢者医療先端研究センター」においては、高齢者医療の先端的な研究のほか、地域社会学の知見を踏まえた学際的な研究を推進する。	【2】	中期計画を実施している	
	中期計画3-1-2-2 【29】地域社会に開かれた大学として、引き続き「秋田大学子ども見学デー」を年1回実施するとともに、社会人向けの公開講座を年7講座以上開催し、地域へ教育研究資源を提供する。事業ごとにアンケートを実施して、その結果について外部委員を含む地方創生センター運営会議で検証し、次年度以降の取組に反映させる。また、引き続き国立大学法人唯一の文部科学省認定社会通信教育である「秋田大学理工学部通信教育講座」を開講し、社会人の職業上必要な知識や技術の習得及び教養のレベルアップに貢献する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	中期計画3-1-2-3 【30】地方創生センター地域協働・防災部門を中心に、外部有識者として秋田県や県内各市町村の防災計画委員会等に参画し、指導・助言を行い、地域防災力を向上させる。また、引き続き地域防災組織や小中学校等での防災教育に協力し、地域における防災意識を向上させるため、各種講演や出前講義を年30件以上実施する。	【2】	中期計画を実施している	
	中期計画3-1-2-4 【31】秋田県内に設置されている秋田大学分校(横手分校、北秋田分校、男鹿なまはげ分校の3校)を通じて、引き続き本学の所在する秋田市以外の地域へ教育研究資源を提供する。具体的には「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」等の公開講演会を年5件以上、小中学生向けの科学教室等を年8件以上、学生と地域住民との交流活動を年9件以上実施する。また、連携協定締結自治体における地域の活性化を図るため、学生と地域が連携した地域の魅力発掘活動や教育資源の提供などの地域課題解決に向けた実践的取組を継続・発展させる。さらに、事業ごとにアンケートを実施して、その結果について外部委員を含む地方創生センター運営会議で検証し、次年度以降の取組に反映させる。	【2】	中期計画を実施している	
大項目4 その他の目標		【3】	順調に進んでいる	3.00
中項目4-1 グローバル化に関する目標		【3】	順調に進んでいる	3.00
	小項目4-1-1 秋田鉱山専門学校・秋田大学鉱山学部及び工学資源学部の資源学分野の蓄積を活かした国際資源学部を中心に、国内外の資源に関わる企業・政府機関等の多様な分野で活躍できる人材の養成を行い、我が国の資源・エネルギー戦略に寄与することを目指し、世界的な資源学教育研究拠点としての充実と、世界水準の教育基盤を確立させる。	【3】	進捗している	2.00
	中期計画4-1-1-1(★)(◆)(*) 【32】資源学の最前線で活躍する文理融合のグローバル人材を養成するため、国際資源学部基礎教育科目における留学生を交えたプレゼンテーション授業を取り入れた少人数クラスによるI-EAP(集中大学英语)の実施及び2年次以上の専門教育科目を100%英語で実施するとともに、3年次の海外資源フィールドワークの参加率を100%とする。	【2】	中期計画を実施している	
	中期計画4-1-1-2(★)(◆) 【33】アジア・環太平洋地域を中心とするグローバル教育・研究とハブ機能を充実させるとともに、アフリカ・中東地域における資源学拠点形成を推進するため、海外共同研究拠点等を平成33年度末までに累計5か所以上設置する。	【2】	中期計画を実施している	
	小項目4-1-2 国際理解力や異文化コミュニケーション能力を持ったグローバルに活躍する人材を育成するため、教育プログラム・カリキュラム等を整備し、学生や教職員の派遣・受け入れを推進する。	【3】	進捗している	2.00
	中期計画4-1-2-1(*) 【34】グローバルに活躍する人材を育成するため、クォーター制(4学期制)の導入やシラバスの英語化を推進し、在学生の海外への留学・研修経験者の割合を平成33年度末までに10%以上とする。また、教職員の派遣を推進するため、引き続き「秋田大学研究者海外派遣事業」や中国・蘭州大学など海外機関との職員相互派遣研修等を実施する。	【2】	中期計画を実施している	

秋田大学

中期目標(大項目)			判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
		中期計画4-1-2-2(＊) 【35】「留学生200人体制」を軸としながら、引き続き外国人留学生の支援体制及び学修・生活環境を整備充実させるとともに、渡日前入学許可制度による入試の実施等により、正規留学生の受け入れを強化する。特に、本学が推進する資源学拠点形成と資源技術者養成等のため、アジア・アフリカを中心とした「資源産出国」からの留学生受け入れを強化し、平成27年度末と平成33年度末を比較して、「資源産出国」からの留学生比率を5%以上増加させる。	【2】	中期計画を実施している

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

- (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (※):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(Ⅰ 教育活動の状況)、} \\ \text{(Ⅱ 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(Ⅰ 研究活動の状況)、} \\ \text{(Ⅱ 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、**【2】**判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。